海・山・平野
手をとり合って

～ 3.11で つながる縁 ～

昔から地域同士の交流が盛んだった山形県最上町・宮城県大崎市・登米市・南三陸町エリア。

2011年3月11日に発生した東日本大震災をきっかけに、その絆はよりいっそう強いものになりました。

最上町・大崎市・登米市・南三陸町。それぞれの、3・11から今まで。

最上町

わらべ唄の宿 湯の原
若女将 柴田 薫さん

最上町赤倉温泉は湯治場の時代から、宮城県の漁師さんたちが湯治に来て繁栄したところですので、津波被害を受けた沿岸部にも昔からお世話になっているお客様がたくさんいらっしゃいました。そこで被害が少なかった私たちは、震災後すぐ、お客様を通じて二次避難のお声掛けをさせていただいたのです。また福島県や大崎市の方にも無料でお風呂を提供していたので、日帰りでお越しいただいた方も。みなさんお風呂に入れない状態だったので「ありがたい」と喜んでいらっしゃいましたね。

その後1年ほど二次避難の受け入れを継続。旅館自体は震災後2ヵ月はほぼ開店休業状態でしたが、2年たった頃からやっと盛り返してきました。なによりも嬉しかったのは、二次避難されていた方が「あの時はありがとうございました」と泊まりにいらっしゃったこと。これからもそういう方が増えていくと嬉しいですね。

大崎市

ホテルオニコウベ
支配人 佐藤 栄治さん

鬼首地区が二次避難の受け入れを開始したのは5月の後半から。停電以外の被害がほとんどなかった当ホテルには、気仙沼市の方がいらっしゃいました。湯治場としてなじみのある鳴子温泉よりもさらに奥の鬼首エリアということで、不安だった方もいらっしゃったようですが、長い時間を過ごす間、スタッフとも仲良くなり「帰りたくない」なんて声をいただくことも。

なかでも印象深いのが、避難者の方と地元の方が一緒に草刈りをしてお酒を飲んだというエピソード。避難者の方は“お世話になっている”という思いが強かったようですが、それをきっかけに「気持ちが少し楽になった」と伺いました。

震災から2年半がたちましたが、当ホテルに二次避難の第一陣が到着した5月22日には、2年連続で避難者の方数名にお越しいただいています。きっかけは不幸なことでしたが、こうした繋がりができたことは良かったですね。

登米市

登米市観光物産協会
会長 阿部 泰彦さん

登米市と南三陸町はとても近く、昔からつながりが強いまち。友人や親戚なども多いので、震災直後から復興に向けて様々な取り組みを行ってきました。救援活動に始まり、その後は復興市など。さらに2012年の7月には、南三陸町の生産者に一日でも早く事業を再開してもらいたいという思いから、物産館『登米・南三陸Festival』をオープンしました。

はじめは登米市の農産物と南三陸町の海産物もなかなか品数を揃えられず苦労しましたが、最近やっと、南三陸町の水産加工品も増えてきて、少しずつ品数が出せるようになってきたんです。

登米市も商店・道路・公共施設などがずいぶん被害を受けました。でも沿岸部の方がもっと甚大な被害を受けているから…と続けてきた支援。日頃から強い結びつきがあったからできたことであると思いますので、今後も復興市などを中心に続けていきたいですね。

南三陸町

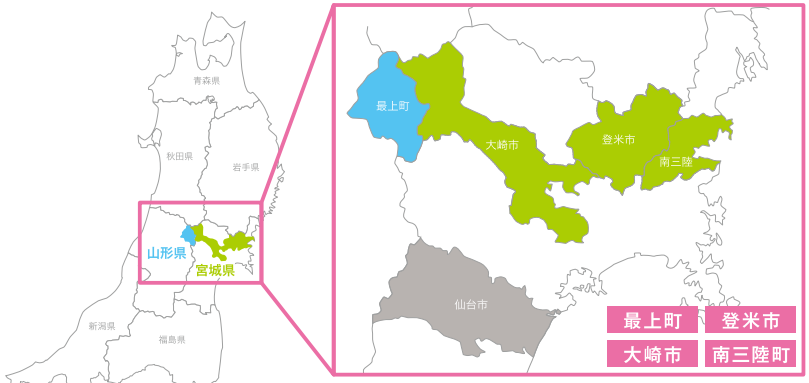
山内鮮魚店
代表取締役社長 山内 正文さん

南三陸町には大崎市からもお客様がいっぱいいらっしゃいますし、昔から漁師の湯治場と言えば鳴子温泉で決まり。そういう繋がりもあったので、震災後、気仙沼市や南三陸町には大崎市に二次避難をした方が多くいらっしゃいました。私自身は避難所のお世話役を引き受けたり、津波で流されてしまったお店や工場の再建も考えなくてはならなかったので二次避難は行いませんでしたが、たくさんの旅館の方々が協力してくださったと伺っています。

震災から2年半がたちましたが、お店の工場は復旧したものの、ホタテやカキ、ホヤなど珍味関係の原料が少なく、なかなか売り上げは戻っていません。今は仮設店舗での営業ですが、いずれは仮設店舗ではなく、道の駅のような集合体のマーケットにみんなで入り、地元の方や観光客の方に無添加の体に優しい水産加工品を届けていきたいと思います。

地域の宝を生かした地域活性化！
東北のセンターライン・未来プロジェクト
～宝の山・里・海をつなぎ、地域を再生する～

観光資源が豊かで、昔から地域同士の交流が盛んだった
山形県最上町・宮城県大崎市・登米市・南三陸町エリアで進められているのが
「東北のセンターライン・未来プロジェクト」。
歴史・自然・産業・人・交流など様々な宝を発掘し、
地域全体の魅力を高めることで、観光客の満足度向上につとめます。



山形県北東部から宮城県北部に位置する
広域な2市・2町の組織体

主な取り組み

宝を掘り起こす
4つのまちに埋もれる観光資源＝宝を掘り起こし、最大のマーケットである仙台市民に観光面でのモニター調査を行う。

＋

宝を磨く
地域の宝の検証や比較を行い、新しい組み合わせによる宝の発見や、特産品のコラボレーション化を進める。

＋

宝をつなぐ・活かす
体験型のモニターツアーを企画して旅行商品を開発したり、情報発信、二次交通の試験運行等にも取り組む

様々な取り組みを通して、震災前以上の魅力を発信していきます！